

日本史授業プリント近代3 (075) 開国とその影響 (3)

2年 組 番

開国

1 1858 年 2 日米修好通商条約 締結

- (a) 開港…³下田・箱館のほか、⁴神奈川・⁵長崎(1859)・⁶新潟・⁷兵庫
…1859. ⁸かわりに下田は閉鎖 … 1860 … 1863
 開市(商取引の許可)⁹江戸(1862)・¹⁰大坂(1863)の ※年はいずれも予定
- (b) 外国人¹¹居留地の指定(10里以内)…¹²居留地貿易 ※自由通行権がない
- (c) ¹³領事裁判権の容認=¹⁴治外法権…外国人は日本の法律で裁けない
- (d) ¹⁵協定関税制=¹⁶関税自主権がない
 ※別冊の「貿易章程」…関税は¹⁷輸出は5%、¹⁸輸入は平均20%

☆ほぼ同内容の条約を、¹⁹オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも締結

…²⁰安政の五カ国条約という。☆勅許がなかったので「安政の仮条約」「²¹違勅調印」とも。

貿易とその影響 ☆貿易の開始 ²²1859年6月…通商条約発効

- (a) 貿易港 全体の80%が²³横浜 (²⁴神奈川から近隣の小漁村に変更) 長崎・箱館も
 ※1862. 兵庫・新潟の開港と江戸・大坂の開市は1867年まで延期される
- (b) 相手国 主に²⁵イギリス ※アメリカは南北戦争[1861~]
- (c) 品目 <輸入> ²⁶毛織物・²⁷綿織物・²⁸艦船・武器・綿糸など…工業製品
 <輸出> ²⁹生糸・³⁰茶・³¹蚕卵紙・海産物・水油など…半製品・食料品
- (d) 収支 最初は大幅な³²輸出超過 ←

その後、1865. 英・米・仏・蘭は軍艦を兵庫沖に碇泊させて威圧し、

³³関税引き下げ・³⁴条約勅許・早期開港を要求→兵庫以外は勅許(兵庫は1867)

³⁵1866. ³⁶改税約書…輸入関税を³⁷5%に下げる →一転して³⁸輸入超過

貿易の影響

〈輸出〉諸物産が大量に流出 ※特に³⁹生糸→⁴⁰価格の高騰→⁴¹絹織物業の衰退
⁴²在郷商人(地方の地主などが成長)の活動…⁴³問屋を通さずに開港地へ直送

→⁴⁴五品江戸廻送令 (1860)

⁴⁵雑穀・水油・蠟・呉服・生糸は必ず江戸の問屋へ回送

目的 貿易統制・物価抑制・江戸の問屋の保護

結果 ⁴⁶在郷商人・欧米諸国の反対→1864年に事実上廃止

〈輸入〉⁴⁷安価な⁴⁸綿織物が大量に流入 →⁴⁹綿作(木綿栽培)・綿織物業の衰退

〈⁵⁰金の流出〉 約50万両

原因 ⁵¹金銀交換比率の違い…日本では金1:銀5、海外では1:15

→洋銀(メキシコ産の銀貨)を持ち込み小判と交換して帰国する者が殺到

対策 貨幣改鑄で金貨の質を⁵²下げる(⁵³万延小判)→流出は停止、物価が高騰

→流通機構の混乱・崩壊 諸物価の高騰

→特に庶民・下級武士の困窮 → 一揆や打ちこわし、攘夷運動の激化

☆⁵⁴遣米使節(1860)…⁵⁵条約批准書交換のため⁵⁶外国奉行 ⁵⁷新見正興ら派遣(米軍艦ポーハタン号)

随行船⁵⁸威臨丸…軍艦奉行⁵⁹木村喜毅、船長⁶⁰勝海舟(義邦)ら

(日本人初の)太平洋横断航海 …幕臣(旗本) 海軍伝習所出身

幕府がオランダから購入した木造蒸気軍艦

【正誤問題に挑戦】〈1992年追試験より〉

- (1) 開港地の中では横浜における貿易額が最も多く、取引相手ではアメリカの商館が第一位だった。
- (2) 幕府は江戸の特権商人を通じて貿易を統制しようとし、五品江戸廻送令を出したが効果はなかった。